

府内全域への展開状況



オリンピック・パラリンピックだよりの発行 (高校) 国際交流における部活動体験 (中学校) 調べ学習の掲示 (小学校)

平成28年度 推進校 49校 (平成27年度 推進校 31校) ※青字は平成27年度からの継続校

◆小学校 (5校)
京都市立祥栄小学校
京田辺市立新小学校
木津川市立上狹小学校
井手町立井手小学校
井手町立多賀小学校

◆中学校 (13校)
京都市立加茂川中学校
京都市立烏丸中学校
大山崎町立大山崎中学校
木津川市立山城中学校
井手町立泉ヶ丘中学校

◆高等学校 (20校)
京都府立鴨沂高等学校
京都府立洛北高等学校
京都府立鳥羽高等学校
京都府立北嵯峨高等学校
京都府立洛水高等学校
京都府立京都すばる高等学校
京都府立乙訓高等学校
京都府立西乙訓高等学校
京都府立西城陽高等学校
京都府立八幡高等学校
京都府立久御山高等学校
京都府立田辺高等学校
京都府立須知高等学校
京都府立綾部高等学校
京都府立西舞鶴高等学校

◆特別支援学校 (11校)
京都府立盲学校
京都府立聾学校
京都府立向日が丘支援学校
京都府立宇治支援学校
京都府立城陽支援学校
京都府立八幡支援学校
京都府立南山城支援学校
京都府立丹波支援学校
京都府立中丹支援学校
京都府立舞鶴支援学校
京都府立与謝の海支援学校

◆高等学校 (20校)
京都府立加悦谷高等学校
京都府立網野高等学校
京都市立栗野高等学校
京都市立西京高等学校・定時制
京都市立塔南高等学校

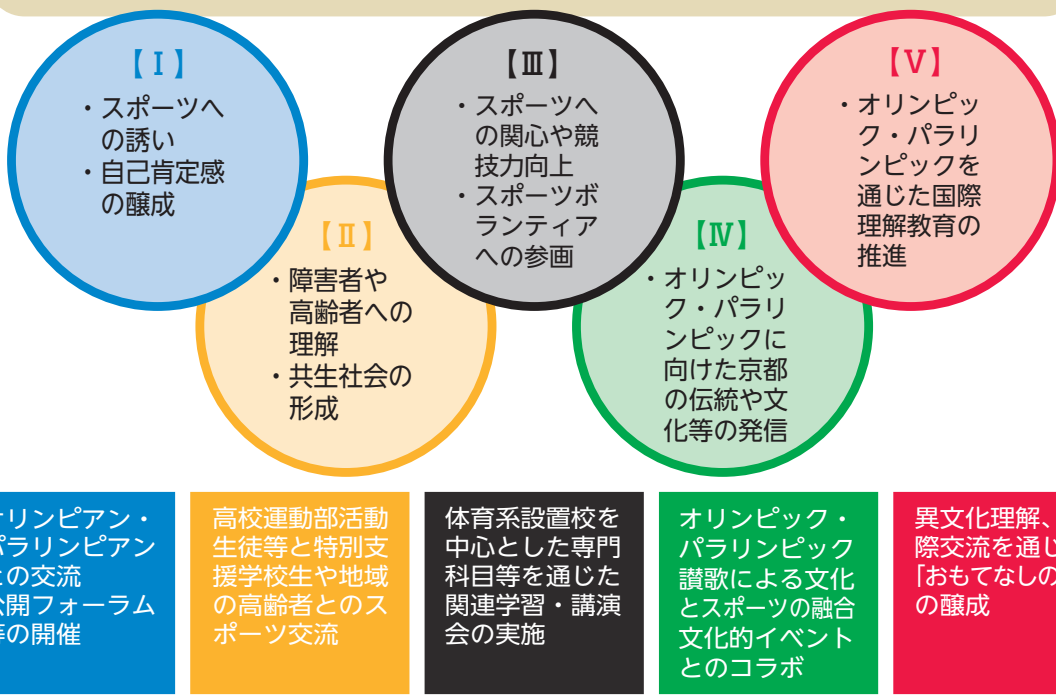


車いすバスケットボール体験 (高校) ブラインドサッカー体験 (高校) フロアバレーボールでの交流 (中学校・特別支援学校)

京都府における オリンピック・パラリンピック教育の推進

オリンピック・パラリンピック教育の推進によって、「スポーツの力」を実感させるとともに、一人一人に豊かな「スポーツごころ」を育み、スポーツ文化の広がりに繋げる。

- ・京都府の取組を全国のオリンピック・パラリンピック・ムーブメントへ繋げる。
- ・2020年以降のスポーツ文化と共生社会形成のレガシーを目指す。



- オリンピック・パラリンピアンとの交流 公開フォーラム等の開催
- 高校運動部活動生徒等と特別支援学校生や地域の高齢者とのスポーツ交流
- 体育系設置校を中心とした専門科目等を通じた関連学習・講演会の実施
- オリンピック・パラリンピック讃歌による文化とスポーツの融合 文化的イベントとのコラボ
- 異文化理解、国際交流を通じた「おもてなしの心」の醸成

2017 事後ワークショップ・事業概要のまとめ・報告書作成 (2月)
公開フォーラム「オリンピック・パラリンピック讃歌」(2月)
地域コンソーシアム (12月)
推進校教員セミナー・事業開始 (9月～)
推進校決定 (9月)

2016 筑波大学から「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を受諾(8月)

- 事後ワークショップ・事業概要のまとめ・研究報告書作成 (2月)
- 公開フォーラム「オリンピック・パラリンピック讃歌」(2月)
- 地域コンソーシアム (11月・12月)
- 推進校教員セミナー・事業開始 (10月～)
- 推進校決定 (9月)
- 京都府オリンピック・パラリンピック教育推進プロジェクト・推進協議会発足 (8月)
- 全体構想・案の策定・H27の具体的な取組概要策定 (8月)

2015 筑波大学から「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」を受諾(7月)

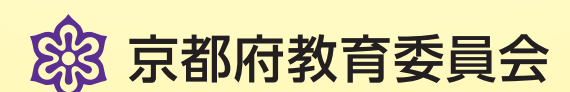
公開フォーラムの開催や推進校の取組紹介等で広く府民に発信するなど、広報活動を推進

京都府オリンピック・パラリンピック教育 推進事業の概要

Vol.2



スポーツ庁委託
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業



平成28年度京都府教育委員会では、国際オリンピック委員会公認のオリンピック教育研究センターを有する筑波大学と協力して、平成27年度の調査研究事業で得た知見をもとに、より発展したオリンピック・パラリンピック教育の普及・推進に取り組みました。

～オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議「最終報告」より～

スポーツの価値

- ◆スポーツは、精神的な充足感や楽しさ・喜びをもたらし、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤である。
- ◆スポーツには、自己充実・自己変革を促す力、社会や世界を変える大きな力がある。

オリンピック・パラリンピック教育の理念

オリンピックの価値 〈IOC 国際オリンピック委員会〉	パラリンピックの価値 〈IPC 国際パラリンピック委員会〉
1. 「Excellence (卓越)」	1. 「Courage (勇気)」
2. 「Friendship (友情)」	2. 「Determination (決意)」
3. 「Respect (敬意／尊重)」	3. 「Equality (平等)」
	4. 「Inspiration (インスピレーション・鼓舞)」

オリンピック・パラリンピック教育の意義

スポーツの価値の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に活躍できる人材を育成する。

平成28年度推進校の主な取組

スポーツへの誘い

オリンピック・パラリンピアンらとの出会い



- 講演、実技講習会、日本代表の練習見学等でオリンピックやパラリンピアンらのトップアスリート、日本代表監督らのトップレベルの指導者やスポーツスタッフと交流。(選手名等は別ページ)
- 「さあやってみようというスポーツごころを育成」、「努力することの大切さを学び、そこから得られる自己肯定感を醸成」すること等がねらい。
- 地元出身のオリンピックや講師の選手の活躍・競技について調べて関心を高める等の事前学習を実施。
- 指導を受けたトレーニングを体育授業や部活動で継続実践、講演から感じたことを話し合っ共有、学んだことを他の学年に伝える方法を工夫する等の事後学習を実施。



心に響いた言葉《感想文より》
 「成功している人は必ず努力している」(中山博貴氏)、「今の自分に明日は勝つ」(真砂勇介氏)、「人間力なくして競技力向上なし」(中村真里氏)、「まずは目の前にある小さな目標から達成していく」(和田伸也氏)、「失敗してもいいよ」(望月聡氏)、「障害は不便だけど不幸だと思ったことは一度もない」(KYOTO UPS)、等

【推進校】 祥栄小学校、上粕小学校、井手小学校、多賀小学校、加茂川中学校、烏丸中学校、大山崎中学校、山城中学校、泉ヶ丘中学校、南桑中学校、園部中学校、蒲生野中学校、瑞穂中学校、綾部中学校、南陵中学校、城南中学校、宮津中学校、洛北高校、鳥羽高校、洛水高校、京都すばる高校、乙訓高校、西城陽高校、久御山高校、田辺高校、須知高校、綾部高校、紫野高校、西京高校定時制、塔南高校

特別支援学校におけるスポーツの推進



- オリンピック・パラリンピック開催を契機に、パラリンピック種目であるポッチャの取組を推進するなど、今まで以上にスポーツに触れる機会や競技力を高める機会を積極的に創出。
- 府立特別支援学校ポッチャ大会を開催。また、地域の学校やスポーツクラブとの交流、高校運動部との合同練習、パラリンピック日本代表合宿の見学等を実施。
- 「競技に対する意識向上」、「スポーツを通して地域社会への積極的参画を促すこと」、「スポーツによる余暇活動の充実」等がねらい。
- 教員対象のポッチャ研修会やPTA対象のポッチャ体験会を開催。

【推進校】 盲学校、聾学校、向日が丘支援学校、宇治支援学校、城陽支援学校、八幡支援学校、南山城支援学校、丹波支援学校、中丹支援学校、舞鶴支援学校、与謝の海支援学校

「友情のメダル」から80年、母校同士の新たな友情



- 1936年のベルリンオリンピックの棒高跳びで2位と3位になった西田選手と大江選手が銀と銅のメダルを半分に割ってつなぎ合わせた「友情のメダル」。2人の母校にあたる和歌山県立桐蔭高校と京都府立西舞鶴高校の生徒が初めて交流。本事業をきっかけに生まれた取組で、新たな友情を育んだ。
- 高い目標を持って競技に打ち込む意識の向上とあわせて、他者への気配り、友情と思いやりの心を育てることがねらい。
- 郷土輩出のオリンピック選手の功績を地域の人々が改めて思い出す機会もなった。

【推進校】 西舞鶴高校

- 《感想文より》
- 困難を抱えた中でも、楽しみを見つけることで前向きになれること、仲間がいることの大切さを改めて感じることができた。また、自分も他人を助けられるようになりたいと思った。
 - 活躍できる場を見つけることは素晴らしいと思った。
 - できないからあきらめるのではなく、できることを精一杯頑張ることが大事だと思った。



共生社会の形成

パラリンピック種目をはじめとした多様な競技の体験



- 小学校、中学校、高校において、パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッド・スポーツなど、障害の有無等にかかわらず誰もが共に楽しめる多様な競技を体験。
- 多様な競技を体験し親しむことで、「スポーツ志向を高めること」、「パラリンピックへの関心を高めること」、「障害者理解を深めること」等がねらい。

主な体験競技

車いすバスケットボール、ゴールボール、シッティングバレーボール、ブラインドサッカー、ポッチャ、車いすハンドボール、ドッチビー、フライングディスク、フロアバレーボール、ホイールチェアフットボール

【推進校】 祥栄小学校、上粕小学校、井手小学校、多賀小学校、烏丸中学校、山城中学校、北嵯峨高校、洛水高校、西乙訓高校、西城陽高校、京都八幡高校、加賀谷高校、西京高校定時制、塔南高校



中学生と特別支援学校生のスポーツ交流

- 「障害の有無にかかわらず、様々な人々とのスポーツによる交流を通して、他者を理解・尊重する資質や能力を身に付け、共生社会の実現を目指すこと」、「オリンピック・パラリンピックをはじめとするスポーツの価値や効果を理解し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てること」等がねらい。
- 障害のある生徒とない生徒が互いを認め合い、励ます関係が構築できた。
- 継続して交流している学校間では、期待感をもって参加する生徒が多い。
- パラリンピック種目であるポッチャ、水泳、卓球のほか、卓球バレー、フロアバレーボール、ドッチビー、フライングディスク、バスケットボール、ダンス、キャスターカーリング(キャスターをカーリングストーンに見立てた独自考案ゲーム)等で交流。
- 部活動では陸上競技、ソフトボールで交流。

【推進校】 鴨沂高校、北嵯峨高校、乙訓高校、西乙訓高校、西城陽高校、京都八幡高校、綾部高校、加賀谷高校、盲学校、聾学校、向日が丘支援学校、宇治支援学校、城陽支援学校、八幡支援学校、南山城支援学校、丹波支援学校、中丹支援学校、与謝の海支援学校



高校生が盲学校で視聴覚障害者の手引き歩行の訓練

- 昨年度に続き、高校生が盲学校を訪問。視聴覚障害者の手引き歩行訓練を実施。障害のある人の困難さを体験し、共生社会を実現させるために何ができるかを考えた。
- 後日、高校生が再び盲学校を訪問。両校生徒がフロアバレーボールで交流。生徒たちは試行錯誤しながら共にプレーし、コミュニケーションの大切さ等を学んだ。パラリンピックにも注目し応援したいという意見がみられた。
- 盲学校生徒は地域中学生ともフロアバレーボールで交流。

【推進校】 北嵯峨高校、盲学校



世代間交流

- 高校生が高齢者に運動指導を行う「シニア向け体操教室」を実施。シニア向けにアレンジした学校オリジナルの体操等を指導。高齢者の方々体の状態を聞きながら直接触れ合いコミュニケーションを深めた。
- 高校の教員と生徒が地元小学校を訪問し、陸上競技「走り方教室」を実施。小学生からの「お兄さん、お姉さんが丁寧にやさしく教えてくれた」などの声は、高校生の自己肯定感の向上にもつながった。
- 高校生が地元小学校で体づくり運動を指導。また、ボランティアとして運動会をサポート。
- 高校生が地元高齢者と協力して小学生対象スポーツ教室「昔遊び」を企画・運営。「昔遊び」の内容はゴム鉄砲、折り紙、糸電話、けん玉等。当日は、高校生・小学生・高齢者の三世代が交流。

【推進校】 北嵯峨高校、乙訓高校、久御山高校、網野高校

- 《感想文より》
- 同じ時間を共有し、一つのことに向かって全員が全力で楽しむことができるスポーツの素晴らしさを改めて感じた。
 - 年齢的に無理かと思ったが、体操はいろいろ参考になり、私には大変良かった。

スポーツへの関心向上・スポーツボランティアへの参画 ~体育系設置高校を中心に~



卒業生トップアスリート等による講演や実技指導

- 体育系設置高校では、競技への関心を高め、競技力の向上を図るとともに、スポーツをとおしてグローバルな活躍ができる人材を育成すること等をねらいとして、オリンピック・パラリンピックやその他の世界大会に出場したトップアスリートによる講演や実技指導を実施。
- トップアスリートの中には、中村直人氏(ラグビー・洛北高校出身)、竹井昂司氏(水球・鳥羽高校出身)、真砂勇介氏(野球・西城陽高校出身)ら、推進校の卒業生も含まれている。

【推進校】 洛北高校、鳥羽高校、乙訓高校、西城陽高校、久御山高校、綾部高校



京都府立高等学校体育系設置校による研究発表大会

- 体育系設置各校の代表による運動やスポーツをテーマとした研究発表。自ら設定したテーマに沿って、実験や調査を繰り返し、考察を深めた成果を発表。
- 会場には、各校がオリンピック・パラリンピック教育における取組のまとめを掲示し、成果を共有。
- リオデジャネイロオリンピックの水泳・飛び込み競技トレーナーの成田崇矢氏による講演を実施。多様なスポーツへの関わり方についても考えた。

【推進校】 洛北高校、鳥羽高校、乙訓高校、西城陽高校、久御山高校、綾部高校

国際理解



交流から体験的に学ぶ

- 「他国のスポーツ・文化についての理解を深め国際感覚を磨くこと」、「オリンピック・パラリンピックに向けたより良い国際交流やホスピタリティ(おもてなし)のあり方について考えること」等がねらい。
- 中学生がオーストラリアの姉妹校生徒とスポーツ、能楽鑑賞、茶道体験などで交流。姉妹校生徒が町内小学校児童と交流する機会や町民運動会へ参加する機会もつくった。
- 高校生がフランスからの留学生やタイ王国訪日文化団と交流。海外高校生とのWebによる交流も行った。
- 青年海外協力隊経験者を招いた講演会を実施。

【推進校】 井手小学校、多賀小学校、泉ヶ丘中学校、鴨沂高校、西乙訓高校



オリンピック・パラリンピック給食週間

- 昨年度に続く取組。オリンピック・パラリンピック開催国の料理や我が国の郷土料理を給食で提供するとともに、給食時間の放送や掲示物の展示等により「食」をはじめとした文化を知ることがねらい。
- オリンピック・パラリンピック給食に関連した話を、町内の各小学校の朝礼で栄養教諭が実施。
- 放送委員会の児童生徒による給食時の放送の実施。
- 「和食」を世界にアピールできるよう、和食文化や我が国の郷土料理についても学習。

【推進校】 井手小学校、多賀小学校、泉ヶ丘中学校



おもてなし講座

- 異なる価値観や文化に対する理解を深めた上で、グローバル社会における「おもてなしの心」を醸成することがねらい。
- 元日本航空CAで現筑波大学大学院客員教授の江上いずみ氏の講演を実施。
- 「愛とおもてなしは同義語だと思った」、「東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募しようと思う」等の感想があった。

【推進校】 南陵中学校、京都すばる高校、綾部高校、聾学校

オリンピック・パラリンピック讃歌

古典和歌と現代短歌の創作を通じた、京都ならではのスポーツと文化の融合



○専門家による作歌指導や選考

【古典和歌の部】
 古来より受け継がれてきた冷泉流の和歌を冷泉貴実子氏から学び、^{京都府立}を兼題とした和歌を創作し、生命の躍動を日本の伝統的な季節感、美意識に則って表現した。(推進校：鳥羽高校)

【現代短歌の部】

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもある。2020年に開催される東京大会の成功に向けた気運を醸成し、京都から、スポーツと文化を融合させた取組を全国に発信するため、昨年に引き続き、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から表現した短歌を広く京都府内の高校・特別支援学校(高等部)の生徒から募集した。今年度は、2,188名、3,444首の応募があり、農学博士で京都大学特定拠点助教、生化学研究者でもある歌人の永田紅氏に選考していただいた。

平成28年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」公開フォーラム

京都府のスポーツ文化を発信する

○「京都府のスポーツ文化を発信する」オリンピック・パラリンピック讃歌

- ◆金剛流仕舞： 演目「忠度」 シテ 金剛龍護 地謡 金剛永護、惣明貞助、向井弘記
- ◆創作古典和歌披露： 鳥羽高校披露研究部による同校優秀作品の披露(選者講評 冷泉貴実子氏)
今朝晴れて雪にさびしき峰の宿 窓に聞こゆる下折れの声 随念健太
関の戸を開けておどろくよのゆき さやかに見ゆるありあけの月 思田麻衣
今朝見ればさやかに見する白き雪 かの子まだらな匂はぬ花よ 杉村朱音
関の戸を開けて驚く野も山も 外の色なき今朝の白雪 今井愛雅
今朝見れば雪より白む四方の色 千里晴れたる外の色なき 原 和希
- ◆創作現代短歌発表： 府内の高校・特別支援学校(高等部)の生徒の優秀作品の発表及び表彰(選者講評 永田紅氏)
【最優秀賞】
スポーツの授業の後の掃除時間みんながうユニホーム着て 上田里湖(鳥羽高校)
【優秀賞】
足元に転がって来る白い球返した時の黄色い空気 竹田亘快(京都八幡高校)
桜花浮かぶプールを眺めてるこれから始まる勝負の半年 西澤澤馬(鳥羽高校)
ぬれている前髪揺らし笑ってる君へ私はボカリを渡す 張田栞花(西舞鶴高校)
朝七時君が歩道を走ってるなんとなく手を振れずに見ている 宮村りさ(南陽高校)
- ◆トークショー： 青木愛(元シンクロナイズドスイミング日本代表、北京オリンピック出場) 進行 宮崎明世(筑波大学体育系准教授)

◆講師として招いたトップアスリート、スポーツ指導者等 ※敬称略◆

青木愛(シンクロナイズドスイミング オリンピアン)、朝原宣治(陸上競技 オリンピアン)・山本慎吾(陸上競技 小学生100m記録保持者)、池田信太郎(バドミントン オリンピアン)、糸賀亨弥(Wheelchair Football Japan代表理事)、岩野博(車いすバスケットボール パラリンピアン)、上田藍(トリアスロン オリンピアン)、江上いずみ(筑波大学大学院客員教授)、大槻浩二(陸上競技 日本パラリンピック出場)・萩本昇(陸上競技 日本パラリンピック出場)、岡本直輝(立命館大学スポーツ健康科学部教授)、片岡正教(日本ポッチャ協会事務局長、京都おたべず(シッティングバレーボールチーム)、楠本繁生(ハンドボール U24日本代表監督)、小林祐子(陸上競技 オリンピアン)、阪根泰子(車いすバスケットボール パラリンピアン)・北田千尋・北間 優衣(車いすバスケットボール 東京パラリンピック日本代表候補)、坂野晴男(車いすバスケットボール パラリンピック代表コーチ)、KYOTO UPS(車いすバスケットボールチーム)、鈴木徹(陸上競技 パラリンピアン)、高岡寿成(陸上競技 オリンピアン)、竹井昂司(水球 オリンピアン)、富田圭造(シッティングバレーボール パラリンピック代表監督)、永井祐司(ホッケー オリンピック強化委員)、一谷麻実・一谷奈歩・山下留衣(ホッケー 東京オリンピックターゲットエイジ代表候補)、中川由希(ホッケー オリンピアン)、中村真里(日本ホッケー協会強化委員長)、中村珍晴(アメリカンフットボール指導者)、中村直人(ラグビー 日本代表)、細川浩三(京都サンガ強化本部長)・中山博貴(京都サンガ普及部コーチ)、成田崇矢(水泳・飛び込み オリンピック代表トレーナー)、比護信子(陸上競技 日本代表)、真砂勇介(プロ野球)、望月聡(サッカー オリンピック代表コーチ)、柳田昌彦(同志社大学スポーツ健康科学部教授)、山田拓朗(水泳・競泳 パラリンピアン)、山本篤(陸上競技 パラリンピアン)、與那嶺憲理(自転車 オリンピアン)・武井きょうすけ(自転車 指導者)、和田伸也(陸上競技 パラリンピアン)・中谷豪美(和歌山選手会練習パートナー)